◆ 大学への想いも、学力と同様、 磨きをかけなければいけませんよ！②

大阪大学の見学を通して、みなさんの“イメージ出来る範囲”は、どれくらい広がったのでしょうか。①学部の紹介、②大学生活の様子、③高校生のとき——の3点に整理された阪大生のプレゼンを聞いて、どの話も本当に多くのヒントがちりばめられたものであったと感じています。

例えば学部の紹介について。阪大法学部では法学科と国際公共政策学科があり、国際公共政策学科は、他の大学でいうところの、いわゆる“グローバル系”の学科にあたります。つまり、みなさんが学部研究をするにあたり、学部名だけを見て“グローバル系”の学部名が見当たらないからといって、「この大学に、自分が望む学部はないんだ…」などと早計に決めつけてしまっはならないことを示唆しています。オープンキャンパスで説明をよく聞いて、パンフレットをしっかりと読み込んで、学部名だけでなく扱っている内容までしっかりと把握してください。

また、理系で工学部や理学部をめざす人は、大学ごとに扱っている分野がかなり大きく異なるので、学科・専攻・コースについて、しっかりと調べてください。自分のための調べごとを、決して他人に任せようとしないうこと。自分のことは自分できちんとしましょう。「自分の大学受験に関する情報は、自分自身が一番よく知っている専門家であれ」です。

学生生活に目を向けると、専攻分野・研究活動については、本校の授業科目「探究」との共通点について触れながら、高校までの他人が決めたゴール(100点)を目指す「勉強」だけではなく、自分でゴールを設定して、試行錯誤を恐れず、自主的に学びを深めることを重んじる「学問」する姿勢の大切さを、プレゼンターの阪大生全員が共通して、話されていました。「学び」について、みなさんのイメージのさらに向こう側の世界を、各学部の具体的な説明と共に、存分に紹介してくれていたと思います。

研究室(QIQB)訪問・施設見学に参加した人は、それぞ

れのプログラムで新たな知の世界の扉が開かれたのではないのでしょうか。大学という知の基盤の姿を垣間見た経験や、文系/理系会場でのお話しも含め、これらのプログラムで触れた内容は、きっとみなさんにとって、新たな知の呼び水として機能してくれるはずですよ。

文系/理系の両会場とも、プレゼンターの学生が自分の取り組んでいる研究について熱く語り、「学ぶことが楽しい」と発信する姿は、実に印象的でした。また、高校生のみなさんに向けてのメッセージで、「興味のあることにはどんどん挑戦しよう」「やってみて、これは自分の興味の方向性とは違っていた、と分かることも大事」ということを、複数の学生が話していました。「気になる」と思ったことに積極的に手を伸ばしてみる——思ったとおりで、もっと“気になる”かもしれませんし、逆にそれほど関心を示さなかった自分を発見するかもしれません。しかし、何事もそうした試行錯誤を通してこそ、自分の“気になること”の精度は上がっていくのです。一発できれないな答えを描こうとしないこと。この見学会でもらった刺激を、自分の学びや今後の生きる姿勢の動機付けに変換して、79期生のみなさん一人ひとりが「豊かに生きる」ことに、食欲に取り組んでほしいと思わずし、期待もしています。

◆ 当面の予定

6/25(水)	1~3限： プチベ① ・4限：授業 5限： 3年次科目選択説明会
26(木)	芸術鑑賞
7/ 2(水)	ベネッセ総合学カテスト
9(水)	懇談週間(～7/17)
18(金)	大掃除・全校集会 (7/19～夏休み)
8/20(水)	集会・大掃除・HR・B木4(午前のみ)
21(木)	プチベ②
28(木)	SSH/探究Ⅱ中間発表会(午後)
5(金)	文化祭(～9/6)
7(月)	代休
19(金)	前期期末考査(～9/26)